

令和3年4月8日

各都道府県産婦人科医会会長 殿

公益社団法人日本産婦人科医会
会 長 木下 勝之

「妊産婦のための食生活指針」の改定について

平素から本会の運営にご協力いただき厚く御礼申し上げます。

さて今般、標記内容について、厚生労働省子ども家庭局母子保健課長より本会宛に通知があり（資料1）、自治体宛にも同様の通知がなされています（資料2）。上記の改定に伴い、母子健康手帳の任意記載事項様式も改定となりましたので、関連通知・資料を添付します（資料3～6）。

平成18年指針の策定から約15年が経過し、健康や栄養・食生活に関する課題を含む妊産婦を取り巻く社会状況等が変化していることから、改訂がなされました。

改定のポイントは、

産婦人科診療ガイドライン産科編2020のCQ 010に記載されている「妊娠中の体重増加指導の目安」が盛り込まれました。

- ・増加量を厳格に指導する根拠は必ずしも十分でないと認識し、個人差を考慮したゆるやかな指導を心がける。
- ・妊娠前の体格（BMI）により、体重増加指導の目安を提示
（BMI18.5未満：12～15kg、18.5以上25.0未満：10～13kg、25.0以上30.0未満：7～10kg、30.0以上：個別対応で上限5kg）

上記概要につきまして、会員の先生方にご案内頂き、詳細は添付資料をご確認いただきまして、地域行政機関と連携しながら、母子とその家族に対する支援体制のさらなる充実を図っていただきますよう、よろしくお願いたします。

【通知等一覧】

（資料1）「妊産婦のための食生活指針」の改定について

（本会宛 令和3年3月31日付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課長通知）

（資料2）（別添）「妊産婦のための食生活指針」の改定について

（自治体宛 令和3年3月31日付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課長通知）

（資料3）母子手帳の任意記載事項様式について

（本会宛 令和3年3月31日付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課長通知）

（資料4）母子手帳の任意記載事項様式について

（自治体宛 令和3年3月31日付け厚生労働省子ども家庭局母子保健課長通知）

（資料5）母子手帳の任意記載事項様式改正新旧対照表

（資料6）母子手帳の任意記載事項様式改正後全文

(新)

◎マタニティマーク

マタニティマークは、妊婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲に妊婦であることを示しやすくするものです。また、交通機関、職場、飲食店などが、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものです。



※マタニティマークホームページ

(http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/maternity_mark.html)

妊娠中と産後の食事

—新しい生命と母体に良い栄養を—

お母さんの健康と赤ちゃんの健やかな発育のために、食事はとても大切です。1日3食とること、特定の料理や食品に偏らないバランスのとれた食事をとることが基本です。特に妊娠中期から授乳期は、普段より副菜、主菜、果物などを多くとるなどして、必要なエネルギーや栄養素をしっかりととりましょう。

◎妊娠中の体重増加は、お母さんと赤ちゃんにとって望ましい量に

妊娠中は、赤ちゃんや胎盤、羊水、母体の子宮や乳房の増大などのため、適正な体重増加が必要です。妊娠中の望ましい体重増加量は、妊娠前の体型によっても異なります。**日本産科婦人科学会が提示する「妊娠中の体重増加指導の目安」を参考に**、食事の内容、とり方、生活のしかたを考えて体重の増え方が順調か、医師や助産師の助言を受けながら見守りましょう。

妊娠中の体重増加指導の目安*

妊娠前の体格**	体重増加指導の目安
低体重（やせ）：BMI18.5未満	12～15 kg
ふつう：BMI18.5以上 25.0未満	10～13 kg
肥満（1度）：BMI25.0以上 30.0未満	7～10kg
肥満（2度以上）：BMI30.0以上	個別対応（上限5kg）

※BMI（Body Mass Index）：体重(kg)/身長(m)²

* 「増加量を厳格に指導する根拠は必ずしも十分ではないと認識し、個人差を考慮したゆるやかな指導心がける。」産婦人科診療ガイドライン編 2020 CQ 010 より

** 日本肥満学会の肥満度分類に準じた。

(旧)

◎マタニティマーク

マタニティマークは、妊婦が交通機関等を利用する際に身につけ、周囲に妊婦であることを示しやすくするものです。また、交通機関、職場、飲食店などが、呼びかけ文を添えてポスターなどとして掲示し、妊産婦にやさしい環境づくりを推進するものです。



※マタニティマークホームページ

(http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kodomo/kodomo_kosodate/boshi-hoken/maternity_mark.html)

妊娠中と産後の食事

—新しい生命と母体に良い栄養を—

お母さんの健康と赤ちゃんの健やかな発育のために、食事はとても大切です。1日3食とること、特定の料理や食品に偏らないバランスのとれた食事をとることが基本です。特に妊娠中期から授乳期は、普段より副菜、主菜、果物などを多くとるなどして、必要なエネルギーや栄養素をしっかりととりましょう。

◎妊娠中の体重増加は、お母さんと赤ちゃんにとって望ましい量に

妊娠中は、赤ちゃんや胎盤、羊水、母体の子宮や乳房の増大などのため、適正な体重増加が必要です。妊娠中の望ましい体重増加量は、妊娠前の体型によっても異なります。次の表の推奨体重増加量を目安に、食事の内容、とり方、生活のしかたを考えて体重の増え方が順調か、医師や助産師の助言を受けながら見守りましょう。

体格区分別 妊娠中の推奨体重増加量

非妊娠時の体格区分	妊娠全期間を通しての推奨体重増加量	妊娠中期から末期における1週間あたりの推奨体重増加量
低体重（やせ）：BMI18.5未満	9～12 kg	0.3～0.5 kg/週
ふつう：BMI18.5以上 25.0未満	7～12 kg 注1	0.3～0.5 kg/週
肥満：BMI25.0以上	個別対応 注2	医師に要相談

※BMI（Body Mass Index）：体重(kg)/身長(m)²

注1 体格区分が「ふつう」の場合、BMIが「低体重（やせ）」に近い場合には推奨体重増加量の上限側に近い範囲、「肥満」に近い場合には推奨体重増加量の下限側に近い範囲の体重増加が望ましい。

注2 BMIが25.0をやや超える程度の場合は、おおよそ5kgを体重増加量の目安とする。BMIが25.0を著しく超える場合には、他のリスクなどを考慮しながら、個別に対応する必要があるため、医師などに相談することが望ましい。